



6th Grand Canvas ショートトーク クラウドセキュリティアライアンスの AIセキュリティガバナンス

日本クラウドセキュリティアライアンス

運営委員 小川隆一

2025年9月17日

Disclaimer

- ▶ 本スライドの内容はCSAジャパン運営委員である小川が手を加えています
(CSAジャパンの公式見解でない部分あり)

CSAジャパンのご紹介



日本クラウドセキュリティアライアンス (CSAジャパン)

CSAジャパンについて ▾	CSAジャパン関西支部 ▾	会員企業一覧	CSA資格/認証制度 ▾	日本語資料集	日本語ビデオ録画集
ワーキンググループ ▾	開催予定のイベント/勉強会	今まで行ったイベント/勉強会情報 ▾	ブログ	CSAジャパンへの入会方法	
電子証明書付きメールについて	FBアクセス方法	CSAジャパン・アカデミー2025			

ようこそ！

クラウドセキュリティアライアンス (CSA) は、国際的に活動を展開している非営利法人です。その使命は、クラウドコンピューティングのセキュリティを実現するために、ベストプラクティスを広め推奨することにあります。そしてクラウドのユーザに対しては、クラウドの利用に際してのセキュリティの確保に向けての啓発教育を提供します。アメリカを中心に、世界に向けて様々なガイダンスや参照モデル、推奨事項を取りまとめ、発信する活動を展開すると同時に、世界60以上の支部が地域に根ざした活動を展開しています。日本クラウドセキュリティアライアンスは、今まで有志によるボランティアな活動として取り組んできましたが、CSAのグローバルな活動量・プレゼンスの拡大と、日本のクラウド環境の発展に伴うニーズに、より早く、より中身をもって取り組むとともに、クラウドセキュリティに関心を寄せる人たちのコミュニティとコラボレーションの場の提供を目指して、一般社団法人としてリスタートすることにいたしました。あなたも、「日本クラウドセキュリティアライアンス」の活動、あるいはCSA本部の各種イニシアティブに参加して、クラウドのセキュリティをともに考え、ともに作り上げていく一員に仲間入りしませんか。CSAと日本クラウドセキュリティアライアンスは全ての人に開かれた団体です。

新着情報

2025年9月15日 **NEW!** 第10回CSAジャパン・アカデミー2025の開催案内と申込受付を開始します！

2025年9月14日 **NEW!** WGセミナー「クラウド環境におけるデジタルフォレンジック～証拠保全ガイドライン第10版の改訂について」(2025年9月9日開催)のビデオ録画を公開しました！

2025年9月12日 **NEW!** 第9回CSAジャパン・アカデミー2025の開催案内と申込受付を行っています！

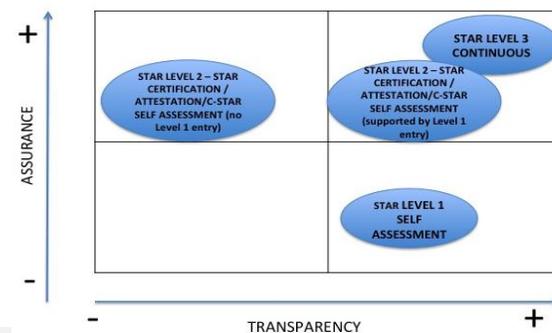
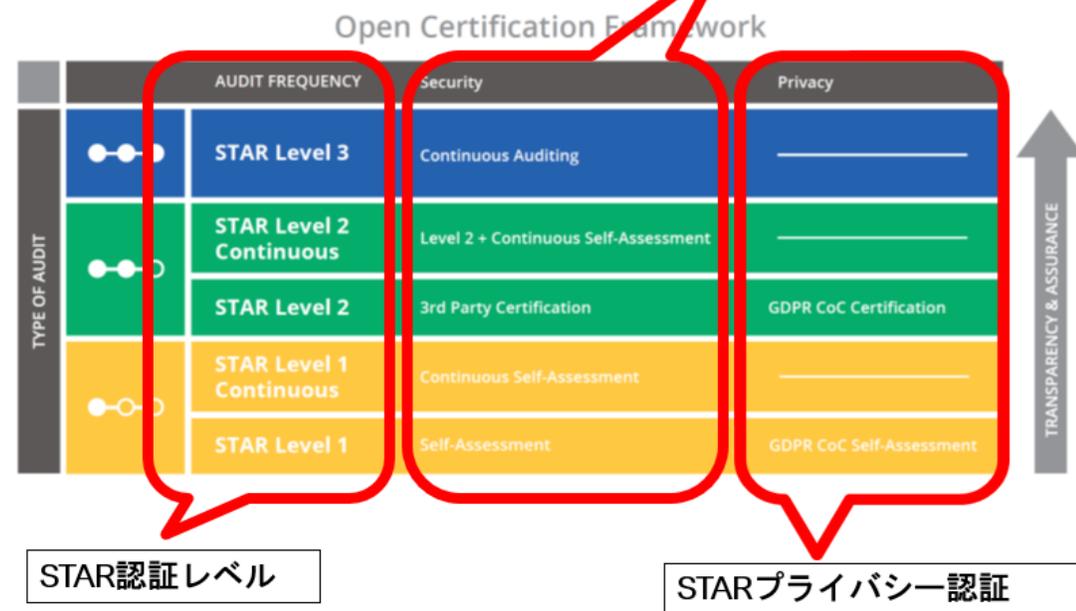
2025年9月7日 **NEW!** 第7回CSAジャパン・アカデミー2025「インフラストラク

STAR (クラウドセキュリティ認証制度)

STAR 透明性と高い保証

- レベル1
 - プロバイダ **自己評価** (セルフアセスメント)
 - レベル2
 - **第三者認証/監査証明**
 - CSA STAR Attestation : SOC2 + CCM
 - CSA STAR Certification : ISO/IEC 27001 + CCM
 - CSA C-STAR : GB/T + CCM
 - レベル3
 - **継続的モニタリング/継続的監査**
-
- 透明性と高い保証を実現
 - レベル1 + レベル2
 - 4000社以上のプロバイダーが登録

STAR™ LEVELS OVERVIEW

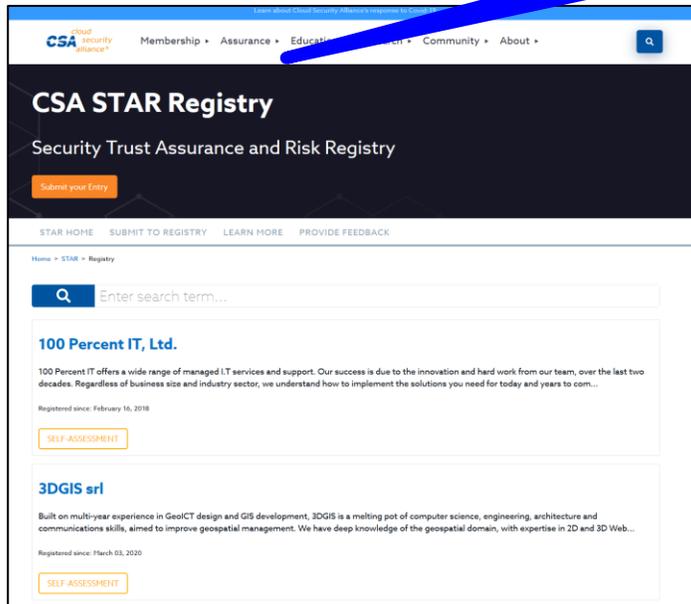


STARレベル1（セルフアセスメント）：透明性

STAR Registry：プロバイダのセルフアセスメントの結果を公開

公開サイト

プロバイダによるセルフアセスメント



Question ID	Question	CSP CAIQ Answer	SSRM Control Ownership	CSP Implementation Description (Optional/Recommended)	CSC Responsibilities (Optional/Recommended)
AIS-02.1	Are baseline requirements to secure different applications established, documented, and maintained?	Yes	CSP-owned	Microsoft Azure has established baseline configuration standards and procedures are implemented to monitor for compliance against these	
AIS-03.1	Are technical and operational metrics defined and implemented according to business objectives, security requirements, and compliance obligations?	Yes	CSP-owned	Microsoft Azure and Dynamics manage Security and Privacy key performance indicators (KPIs) to	
AIS-04.1	Is an SDLC process defined and implemented for application design, development, deployment, and operation per organizationally designed security requirements?	Yes	Shared CSP and CSC	Microsoft Azure's software development practices are aligned with the Microsoft Security Development Lifecycle (SDL)	Customers are responsible for developing and following a secure software development program for the customer environment.
AIS-05.1	Does the testing strategy outline criteria to accept new information systems, upgrades, and new versions while ensuring application security, compliance adherence and organizational speed of delivery goals?	Yes	Shared CSP and CSC	Microsoft Azure has established software development and release management processes to control implementation of major changes. Security testing is performed in the	Customers are responsible for developing and following a secure software development program for the customer environment.
AIS-05.2	Is testing automated when applicable and possible?	Yes	Shared CSP and CSC	Microsoft Azure perform security testing in the implementation, verification and release phases of the	Customers are responsible for developing and following a secure software development program for

引用：Microsoft AzureのStar1

CCM、CAIQ概要

国際的基準とマッピング済

- ISO/IEC 27001
- NIST SP800-53
- SOC 2
- PCI DSS
- FedRAMP

➤ CCM (Cloud Control Matrix)

- CSAが提供するクラウドセキュリティ管理策集
- 17ドメイン、197の管理策
- AIセキュリティに絡む主な特徴
 - Implementation Guidelines (CCMの実装者向けガイド)
 - Auditing Guidelines (CCMの監査者向けのガイド)
 - Scope Applicability (Mapping) (他の規格とのマッピング)

➤ CAIQ (Consensus Assessment Initiative Questionnaire)

- CCMの各コントロールの内容をブレイクダウンし、チェックリスト化
- 質問数
 - 261個
- AIセキュリティに絡む特徴
 - CSP CAIQ Answer : 質問に対するCSPの評価結果 (Yes/No)
 - CSP Implementation Description : CSPからの補足情報 (オプション)
 - CSC Responsibilities ; CSCの管理責任の概要 (オプション)



CSAのAI関連活動

- **Valid-AI-ted**
- **AI Controls Matrix (AICM)**
- **STAR for AI**
- **Compliance Automation Revolution (CAR)**
- **AI Safety Initiatives**

Valid-AI-ted (2025年5月開始)



➤ LLMで、CAIQ評価レポートを分析

- LLMによるCAIQ評価分析で自己評価の信頼性を向上
- CAIQの「CSP Implementation Description」の内容をAIで評価
- CCMの「Implementation Guidelines」を参照
- 合格すると、Valid-AI-tedバッジが発行され、STAR Registryに表示

プレイヤー	Before : STAR Level1セルフアセスメント	After : Valid-AI-ted
CSP	<ul style="list-style-type: none">クラウド利用者とのチェックリストのやり取りが簡略化透明性と信頼性の向上。顧客に対してセキュリティポスチャを明示マーケットでの競争優位性	<ul style="list-style-type: none">AIがCAIQセルフアセスメントを解析し、実装内容の適合性を自動スコア化。セルフアセスメントの質を高め、STAR Registryの信頼性を向上監査前の自己チェックや改善点の特定が容易Valid-AI-tedバッジにより顧客への透明性・信頼性を示すことが可能
CSC	<ul style="list-style-type: none">CSPとのチェックリストのやり取りが簡略化CSPのセキュリティ、コンプライアンス状況を標準化されたフォーマットで比較可能提供されるCAIQ情報を活用し、RFPやベンダーリスク評価の時間を短縮	<ul style="list-style-type: none">クラウドサービス選定の精度向上。AIによる解析により、従来より深いレベルでプロバイダのセキュリティ状況を可視化複数プロバイダのセキュリティ強度を客観的に比較実装内容の詳細が明確になり、利用者のセキュリティ検証負荷が低減
Auditor	<ul style="list-style-type: none">評価基準の標準化。CCMとCAIQに基づく評価枠組みが明確であり、監査プロセスが効率化されるCSPが公開するセルフアセスメントや監査レポートを監査の補助資料として活用可能	<ul style="list-style-type: none">監査の効率化。AIが事前にCAIQ記述を解析し、リスクや不備を指摘するため、監査の工数削減が可能。一貫性・標準化AI評価により監査基準のばらつきが減少し、監査の客観性が向上

AI Controls Matrix (AICM) (1) (2025年6月開始)



- ▶ クラウドにおけるセキュアで信頼性の高いAIシステム構築のための管理策集
 - ▶ AI固有のリスクを評価し、管理
 - ▶ 信頼性の高いAIシステムを構築
 - ▶ 国際基準に準拠
- ▶ **CCMと同じフレームワーク** (CCMを拡張)
 - ▶ AICM固有に追加されたドメインが**Model Security(MDS)**
 - ▶ それ以外の17のドメインは、CCMのドメインにAICMとしての管理策が記述
 - ▶ 管理策を、AI向け (**AI-Specific**)、クラウド向け (**Cloud-Specific**)、AIとクラウド両方向け (**Cloud&AI-Related**) で明示

CCMのAIクラウド拡張

A&A Audit & Assurance	IAM Identity & Access Management
AIS Application & Interface Security	IPY Interoperability & Portability
BCR Business Continuity Mgmt & Op Resilience	I&S Infrastructure Security
CCC Change Control & Configuration Management	LOG Logging & Monitoring
CEK Cryptography, Encryption & Key Management	MDS Model Security
DCS Datacenter Security	SEF Sec. Incident Mgmt, E-Disc & Cloud Forensics
DSP Data Security & Privacy	STA Supply Chain Mgmt, Transparency & Accountability
GRC Governance, Risk Management & Compliance	TVM Threat & Vulnerability Management
HRS Human Resources Security	UEM Universal EndPoint Management

AI Controls Matrix (AICM) (2)



➤ AICMの現在の提供状況

➤ **赤**で囲った部分が現在提供されている部分（Mappingについては現時点でBSI AIC4とNIST AI 600-1 (2024)を提供）

➤ 今後の予定

- ISO42001とのマッピング（現在公開レビュー中）
- Implementation Guidelines（現在公開レビュー中）
- EU AI Actとのマッピング（作業中）
- Auditing Guidelines（作業中）



STAR for AI

(AIを実装したクラウドのためのSTAR認証拡張)



- CSA STARの拡張によるAIとクラウド企業およびエンタープライズユーザー向け認証プログラム
- AI Controls Matrix (AICM)を使用
- 対象
 - AI企業、クラウドプロバイダ、SaaSプロバイダ、AIエンタープライズユーザー
- STARプログラムの上に、AIのためのSTARを構築
 - STARのフレームワークを活用
 - STAR for AIレベル1 – Self Assessment & Valid-AI-ted
 - STAR for AIレベル2 – 3rd Party Audit
 - 現状からのシームレスな移行
 - 4,000社以上のクラウドプロバイダーの登録実績
 - 政府、業界、企業で幅広く採用

STAR™ LEVELS OVERVIEW

Open Certification Framework

	AUDIT FREQUENCY	Security	Privacy	
TYPE OF AUDIT	●●●○	STAR Level 3	Continuous Auditing	↑ TRANSPARENCY & ASSURANCE
	●●○○	STAR Level 2 Continuous	Level 2 + Continuous Self-Assessment	
		STAR Level 2	3rd Party Certification	
	●○○○	STAR Level 1 Continuous	Continuous Self-Assessment	
STAR Level 1		Self-Assessment	GDPR CoC Self-Assessment	

プレイヤー	メリット	課題
CSP	<ul style="list-style-type: none">• AICMに基づくAI特化のSTAR認証を取得し、信頼性と透明性を顧客へ示すことが可能• AIを安全に運用できるプロバイダとして差別化が可能• STAR for AIのフレームワークにより、複数規制（ISO 42001、EU AI Actなど）に効率的に対応可能	<ul style="list-style-type: none">• 新たなAICM準拠や第三者監査にかかるコストやリソース負担が増加か？• 技術的成熟度不足により、AI特有のリスク管理策（モデル攻撃対策、データ品質保証など）の実装負荷が高くなるか？
CSC	<ul style="list-style-type: none">• AIを活用したクラウドサービスのセキュリティレベルをSTAR for AIで確認可能• AICM準拠したSTAR認証を比較することで、プロバイダ選定の負荷が減少• 導入時のリスク低減が可能	<ul style="list-style-type: none">• STAR for AI未登録プロバイダとの比較が困難• AICMの技術的・専門的な内容を正しく理解するための知識が必要
Auditor	<ul style="list-style-type: none">• AICMを活用することで、AIシステム監査の統一基準として利用可能• STAR for AI認証情報を参照することで、監査の事前準備や検証作業が削減• グローバル基準と整合が取れているため、複数規格に対応しやすい	<ul style="list-style-type: none">• AICMのガイドラインやベストプラクティスが発展途上のため、評価基準の安定性に課題• AIモデルやMLOps特有のリスクを理解するため、高度なAIセキュリティ知識が必要

Compliance Automation Revolution(CAR)



➤ 背景

- コンプライアンスマネジメントがクラウドセキュリティの大きな負荷
- 沢山のコンプライアンス要件に対して、本当の意味でのセキュリティ向上につなげていない
- GRCユーザーの60%がいまだにスプレッドシートですべてを管理（参照：Coalfire Compliance Report 2023）

➤ HOW

- AIによるコンプライアンスの自動化
 - 継続的なモニタリングアーキテクチャにより、問題をリアルタイムで検出
- 規制・規格の取り込みと正規化された管理フレームワークのために生成AIを利用
 - AIを活用した規制の分析により、複雑な要件を理解
- 監査分析のための生成AI
 - 自動化された管理策のテストにより、手動によるオーバーヘッドを排除
 - マシン・ツー・マシンのコンプライアンス通信を可能にする標準（OSCAL）の利用

AI関連活動のまとめ

1. 既存ガバナンスフレームワークとの連携

- ▶ CCMを基盤とし、AI向け管理策を追加した拡張版（AICM）を展開
- ▶ ISO 42001、NIST AI RMF、EU AI Act などの規格・法規制とのマッピング

2. STAR for AI の認証拡張

- ▶ 従来の CSA STARプログラムをAI領域に拡張。AIサービス提供者・SaaSベンダー・エンタープライズAIユーザーの信頼性を可視化
- ▶ AICMを活用して、AI関連サービスのセキュリティ成熟度を評価・認証

3. AIによるコンプライアンス自動化

- ▶ Valid-AI-ted プログラム
 - ▶ AI（LLM）でCAIQ評価レポートを自動解析し、評価の精度と効率化を実現
- ▶ Compliance Automation Revolution（CAR）
 - ▶ 生成AIを用いて、規制要件の分析・監査・テストを自動化する取り組み

最後に

ご興味の方は小川まで
CSAジャパン参加絶賛募集中
企業会員
個人会員